

白鳳仏について調べるには

2025.7 調布市立中央図書館

? 深大寺の白鳳仏とは

深大寺にある、仏さまが椅子に腰かける姿をかたどった像です。7世紀につくられたと推測されています。正式な名前は「銅造釈迦如来倚像(どうぞうしゃかによらいぞう)」です。2017 年9月に国宝に指定されました。



1 資料で調べる

調布市立図書館では、白鳳仏に関する本を所蔵しています。ここでは、その一部をご紹介します。

タイトルの後の記号は本のラベルです。本を探す参考にしてください。

資料のある場所 中央図書館5階参考図書室にあります。

『深大寺学術総合調査報告書 第1分冊 彫刻・絵画・工芸』

T 01 188.4-シ 1

昭和 52 年から 5 か年計画で行われた深大寺の学術調査の結果を、3冊にまとめた報告書の1冊目です。白鳳仏については、4ページから載っています。像の詳細な形状や伝来が書かれており、像を後ろと下から見た写真や内部を見られるγ線写真も載っています(すべて白黒写真)。

『子どものための調布市の歴史 第2版』T 01 210.1-コ

83 ページに「深大寺の白鳳仏」の項目があります。白鳳仏について、わかりやすい文章で説明しています。写真(白黒)も載っています。

『図説 調布の歴史』T 01 210.1-ス

調布の歴史といえば、まずこの一冊。64・65 ページの「仏教信仰の普及」のページに、載っています。カラー写真もあります。

『金属 2006/9』p79-84

『金属 2006/10』p97-101 T 01 581-キ

複合X線分析装置による分析結果がまとめられています。釈迦如来像が、何度かの火災に遭ったこと、唇が赤かピンクに塗られていたことがあったこと、金泥で塗色されていたことがあったことなどが判明しています。

『よみがえる天平のいぶき－深大寺白鳳仏厨子と吉田包^{ほうしゅん}春－』 T 01 702-ヨ

白鳳仏が収められている「深大寺釈迦如来倚像厨子」は、漆芸家・吉田包春によって作られました。この本は、平成 28 年 11 月に深大寺本堂で開催された企画展示の解説パンフレットです。前述の厨子を始めとする包春作品が、カラー写真で掲載されています。

『焼失をのがれた国宝白鳳仏と寺宝の数々-深大寺本堂再建 100 年記念-』T 01 702.1-シ

慶応の大火から本堂が復興して 100 年の記念に、深大寺で開催された展示のパンフレットです。深大寺文書の一部や焼失を逃れた

寺宝の紹介に加え、江戸時代の大火と深大寺、慶応の大火からの復興についても解説があります。

『週刊日本の仏像-原寸大-No.42』T 01 718-シ

※貸出できない資料

この本のすごいところは、なんといっても白鳳仏の原寸大カラー写真が載っているところです。横と後ろから写した写真や、復元想像図も載っています。

『深大寺金銅釋迦如来倚像』T 01 718.5-シ

昭和 14 年の出版です。明治 42 年の深大寺釈迦如来像再発見時のエピソードや、釈迦如来像の様々な部位の計測結果が載っています。右耳の長さは2寸9分(約11cm)あるそうです。

『深大寺の白鳳仏－武蔵野にもたらされた奇跡の国宝－』

T 01 718.5-シ

深大寺像の最大の謎はその伝来です。なぜ白鳳仏の名品が中央から遠く離れた武蔵野の地に存在するのか。いつ、だれがもたらしたのか。大いなる謎を解明していく1冊です。

『深大寺白鳳仏国宝指定記念講演録』T 01 718.5-シ

平成 29 年度に深大寺で行われた国宝指定記念連続講演会の記録です。美術史や歴史等、様々な角度から有識者が解説し、釈迦如来像の製作背景や本像の魅力に迫っています。



2 インターネットで調べる

①調べる時のコツ

白鳳仏は色々な名前で呼ばれています。新聞記事やインターネット上の情報を検索する時や、図書館にある本を検索する時には、通称の「白鳳仏」と正式名称の「銅造釈迦如来倚像(どうぞうしゃかにょらいいぞう)」、また「釈迦如来像」などで検索すると、より多くの記事や資料が見られます。

②調布市からの情報を調べる

調布市公式ホームページで、白鳳仏に関する情報を発信しています。トップページの右に表示される検索欄に「白鳳仏」と入れて検索ボタンを押すと、関連する記事が見られます。市報に載った記事も、調布市公式ホームページから見られます。

